

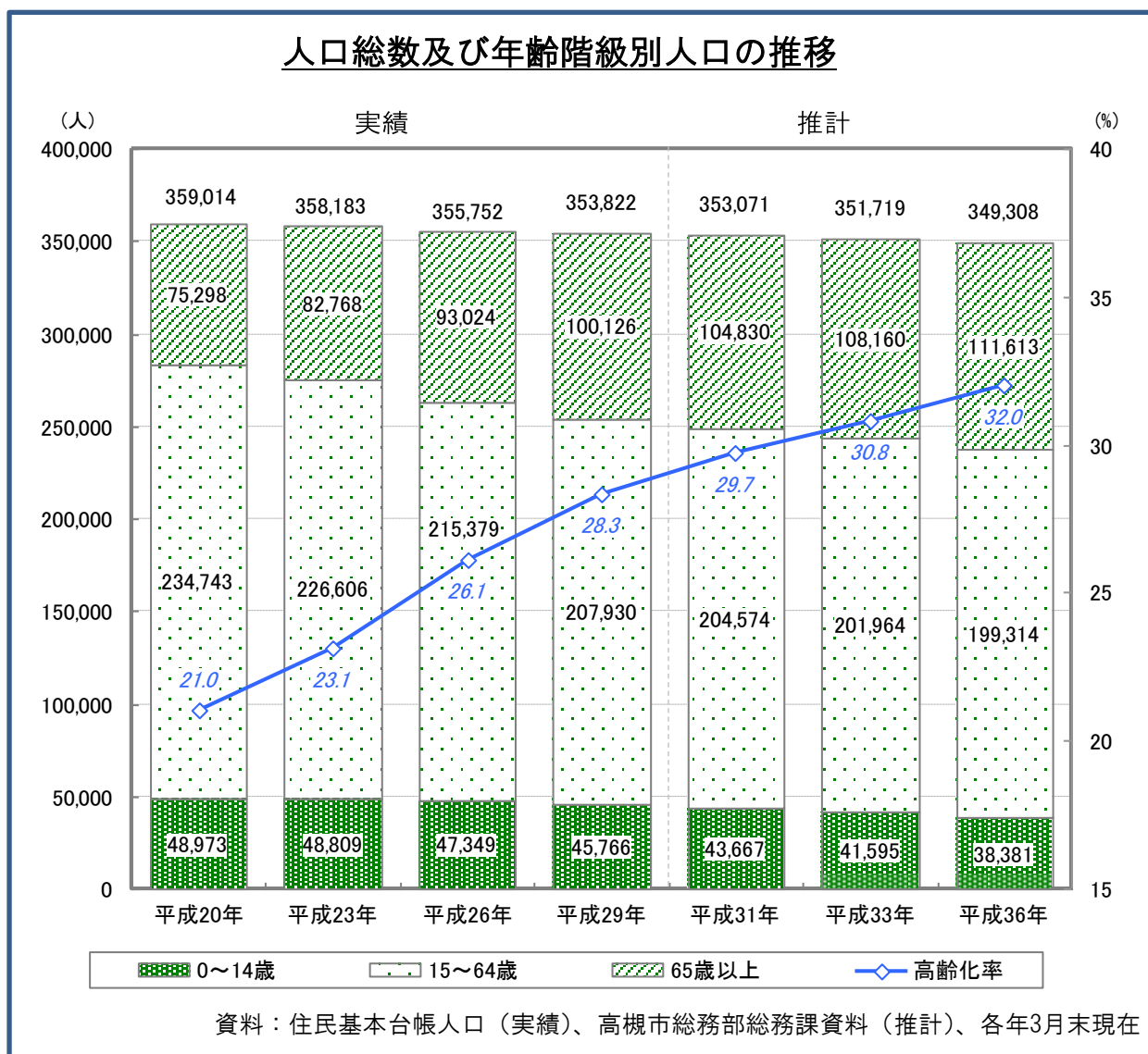
第2章 健康をとりまく状況

1. 人口と年齢構成

人口総数は、平成29年（2017年）3月末現在353,822人となっており、緩やかな減少傾向にあります。

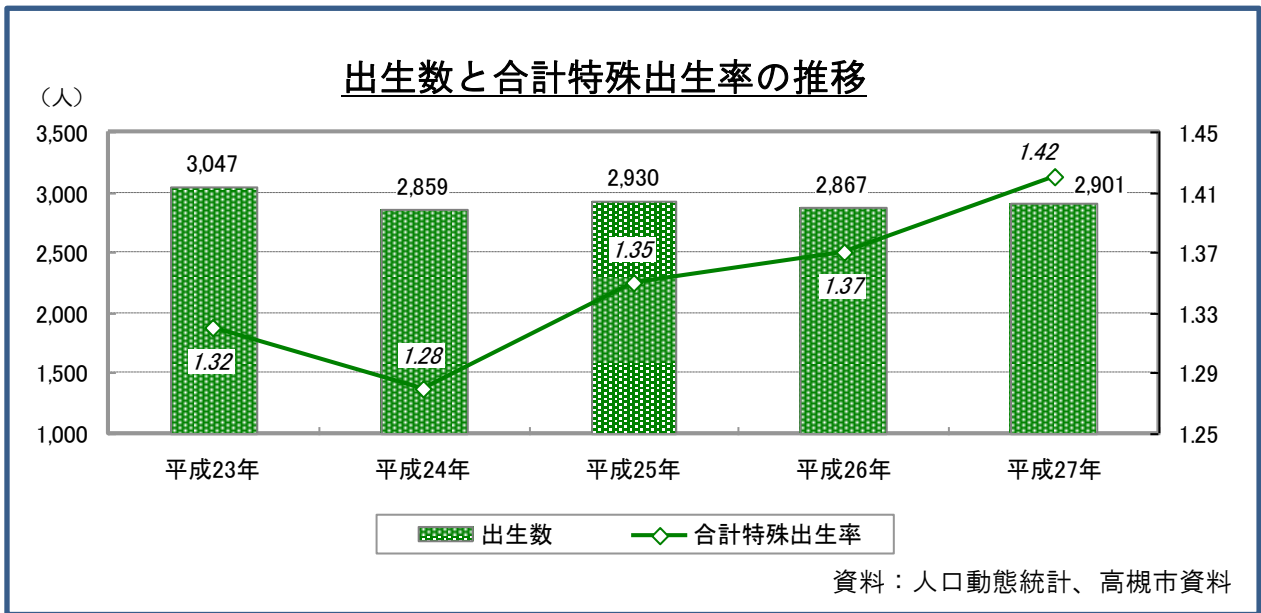
年齢階層別にみると、0歳から14歳までの年少人口、15歳から64歳までの生産年齢人口の減少が続く一方、65歳以上の高齢者人口は一貫して増加しており、平成29年（2017年）3月末現在の高齢化率は28.3%となっています。

また、今後の人口について推計した結果によると、本計画の最終年度である平成35年度（2023年度）末の人口総数は349,308人、高齢化率は32.0%に達するものと予測されます。



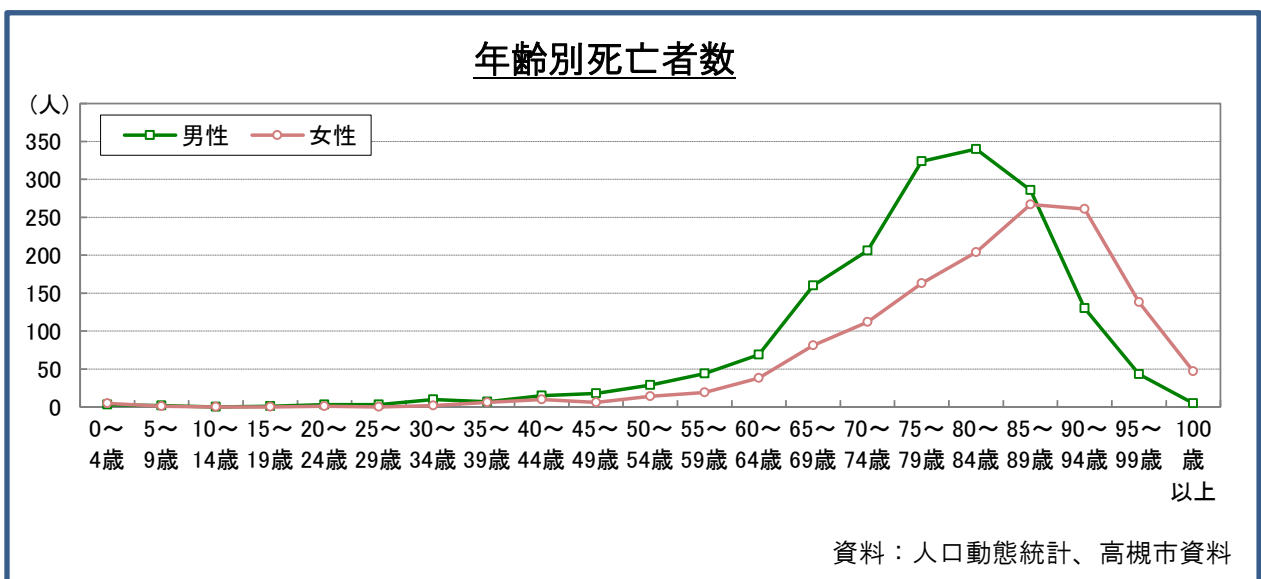
2. 出生の状況

出生数については、平成24年（2012年）に2,859人まで低下しましたが、その後は横ばい傾向にあります。また、合計特殊出生率についても平成24年（2012年）に1.28と落ち込みましたが、その後は緩やかに高まる傾向にあります。



3. 死亡の状況

平成27年（2015年）の年齢5歳階級別死亡者数をみると、男女とも60歳前後から死亡者数が急激に増えており、男性の死亡者数のピークは80歳から84歳、女性は85歳から89歳となっています。

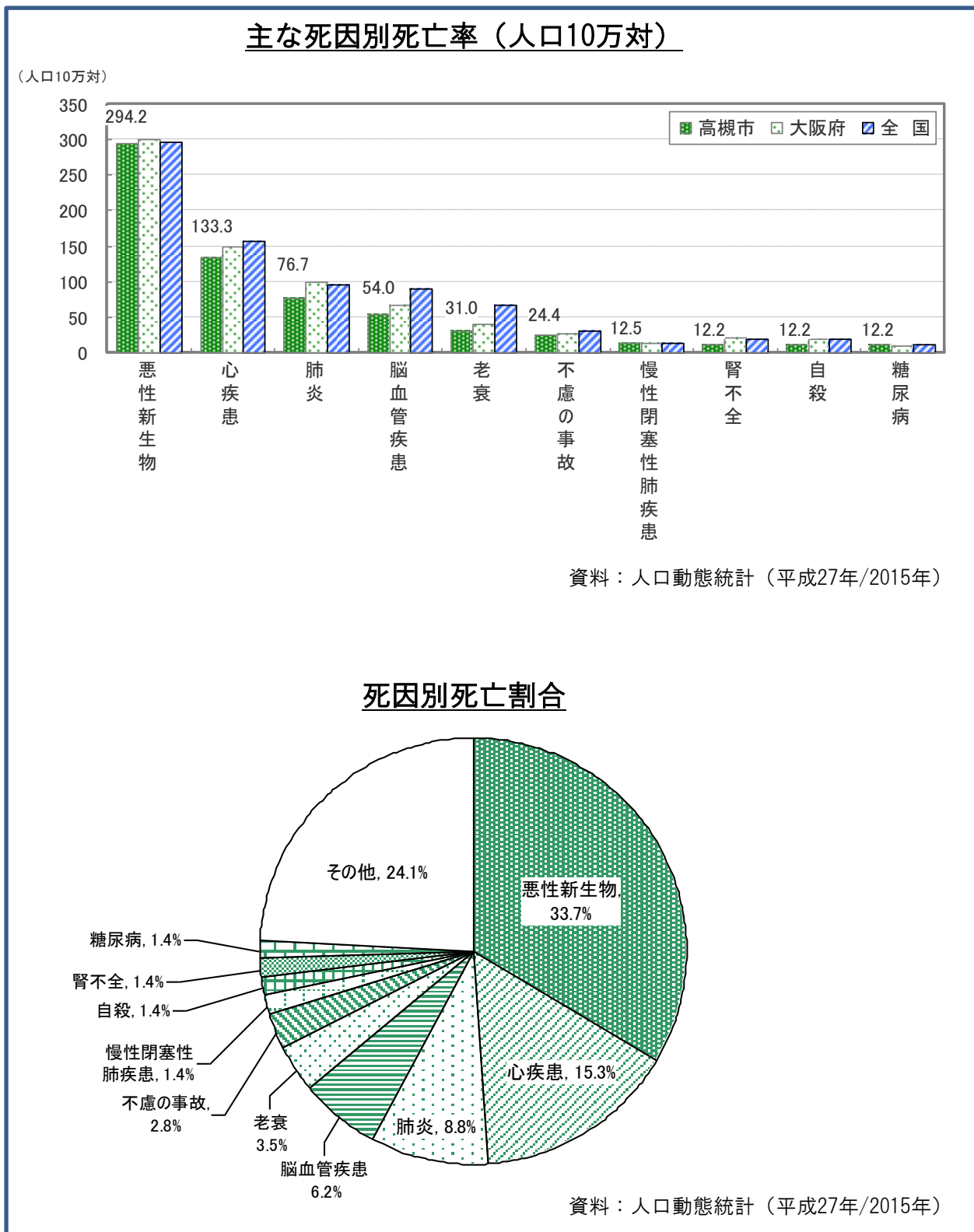


第2章 健康をとりまく状況



主な死因別に死亡者数の状況を見ると、全国や大阪府の傾向と同様に、悪性新生物（がん）が最も多く、次いで心疾患、肺炎、脳血管疾患、老衰、不慮の事故の順となっています。

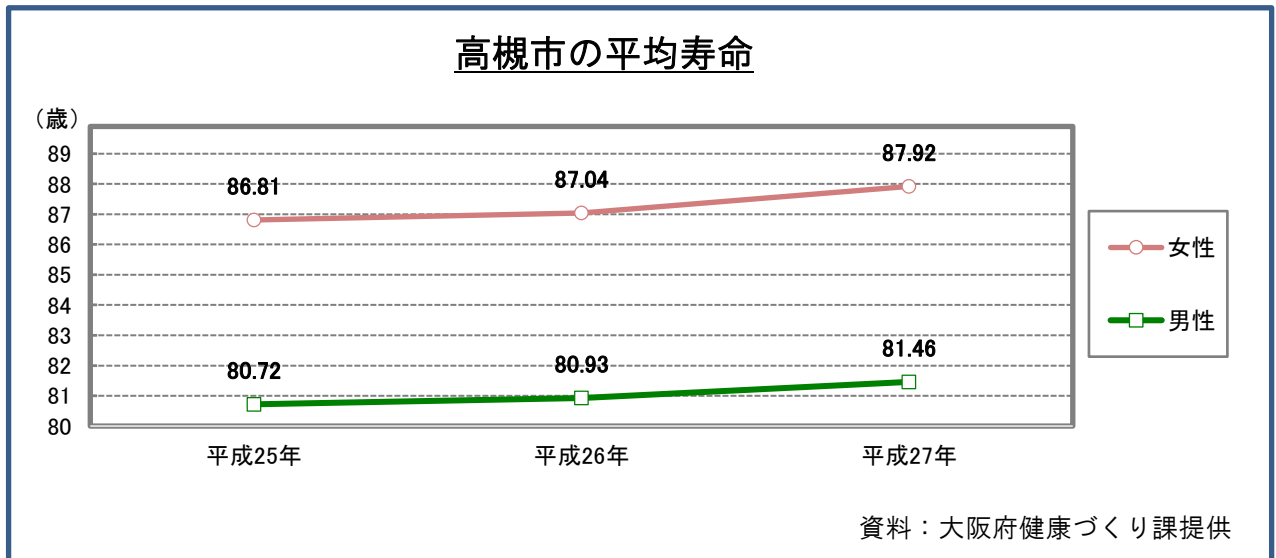
また、人口10万人当たりの死亡率は糖尿病など一部の死因を除いて、全国や大阪府より低い水準となっています。



4. 平均寿命と健康寿命

＜平均寿命＞

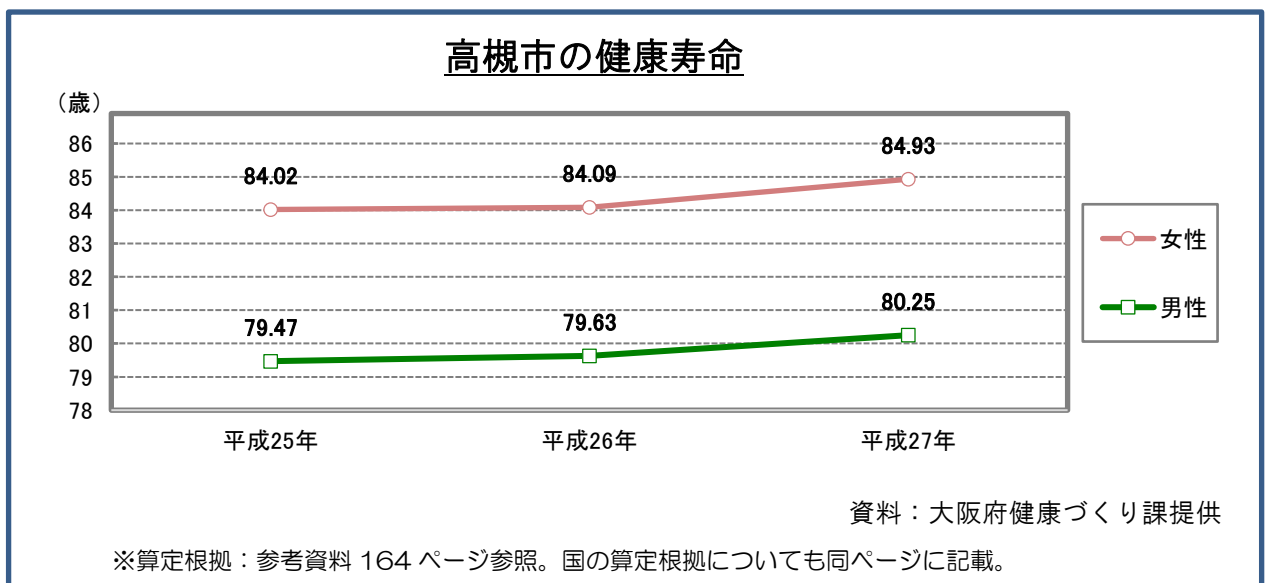
本市の平成27年（2015年）の平均寿命は、男性が81.46歳、女性が87.92歳となっています。



＜健康寿命＞

健康日本21（第二次）では、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間を「健康寿命」と定義し、国民の健康寿命の延伸及び生活の質（QOL）の向上を目標に掲げています。

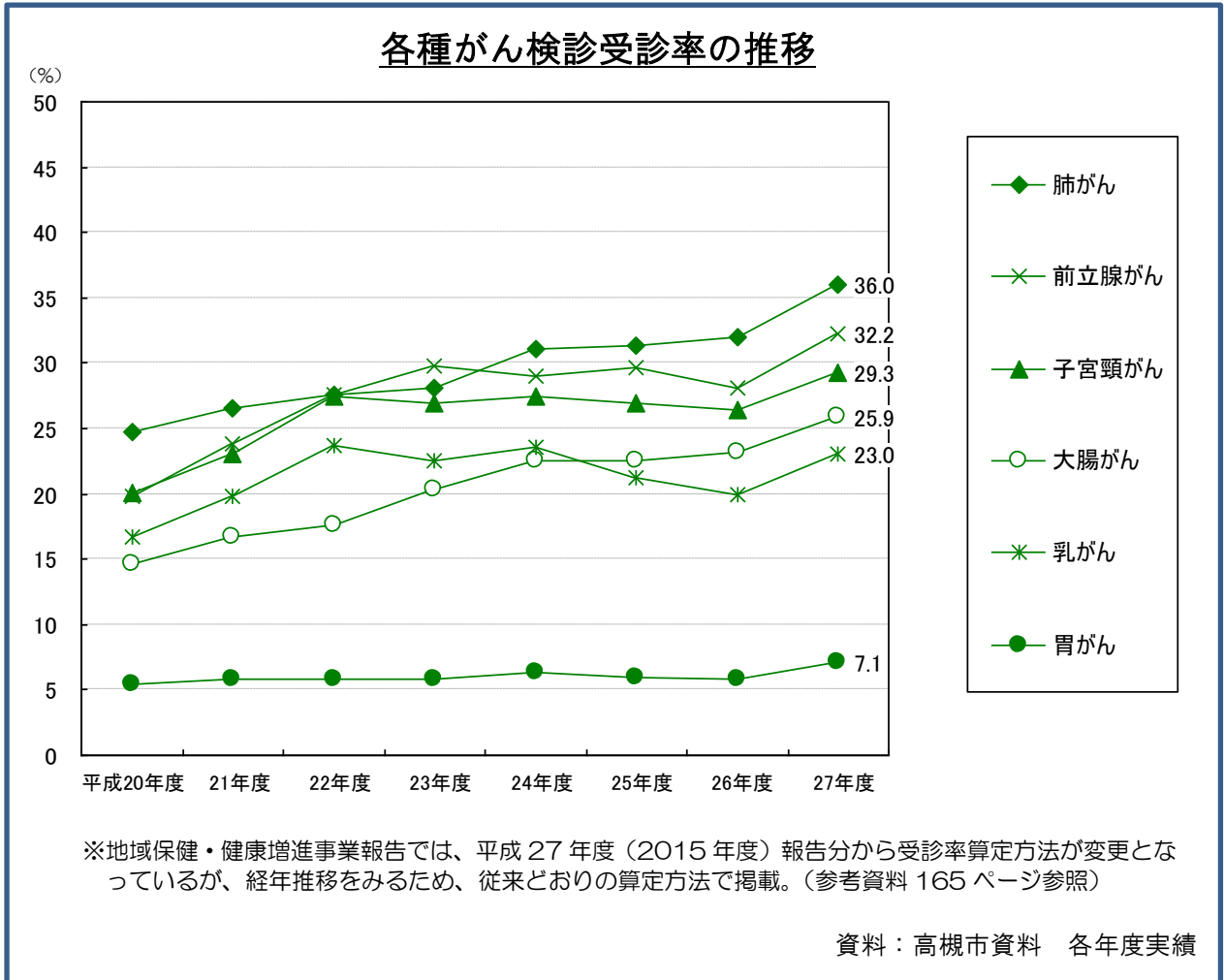
本市の平成27年（2015年）の健康寿命は、男性が80.25歳、女性が84.93歳となっています。





5. がん検診の受診状況

平成27年（2015年）9月から開始したがん検診受診料の無料化などの取組の結果、すべての種類のがん検診で受診率が上昇しています。



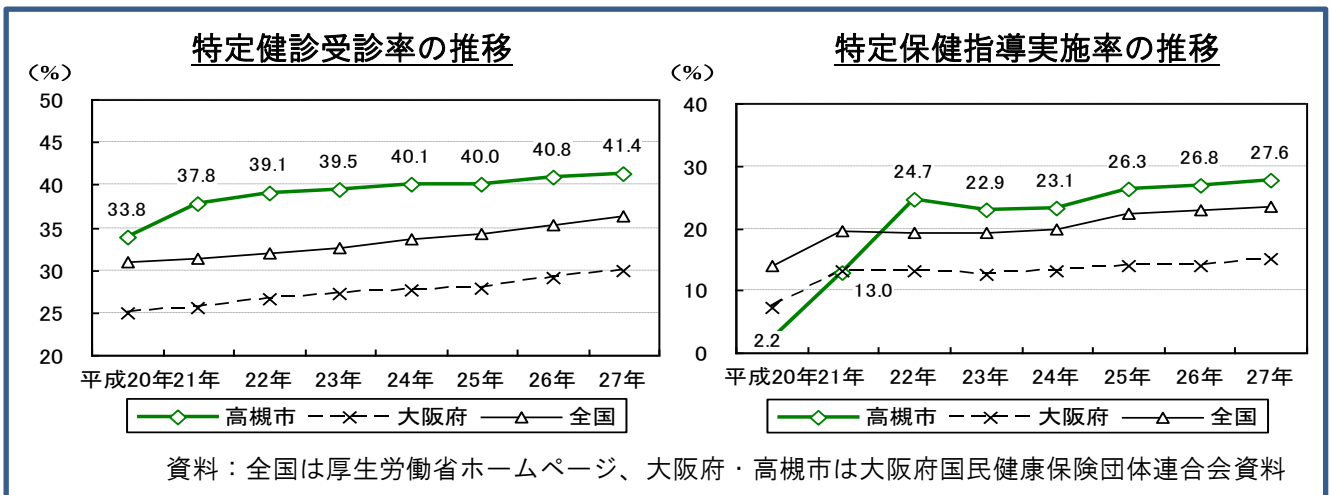
6. 国民健康保険加入者の受診状況

国民健康保険加入者を対象として、生活習慣病重症化（虚血性心疾患、脳血管疾患等）の危険因子となる高血圧・糖尿病・脂質異常等を早期発見し、生活習慣の改善によるリスク軽減を図るため、特定健康診査（以下、「特定健診」という。）・特定保健指導を実施しています。

＜特定健診受診率・特定保健指導実施率＞

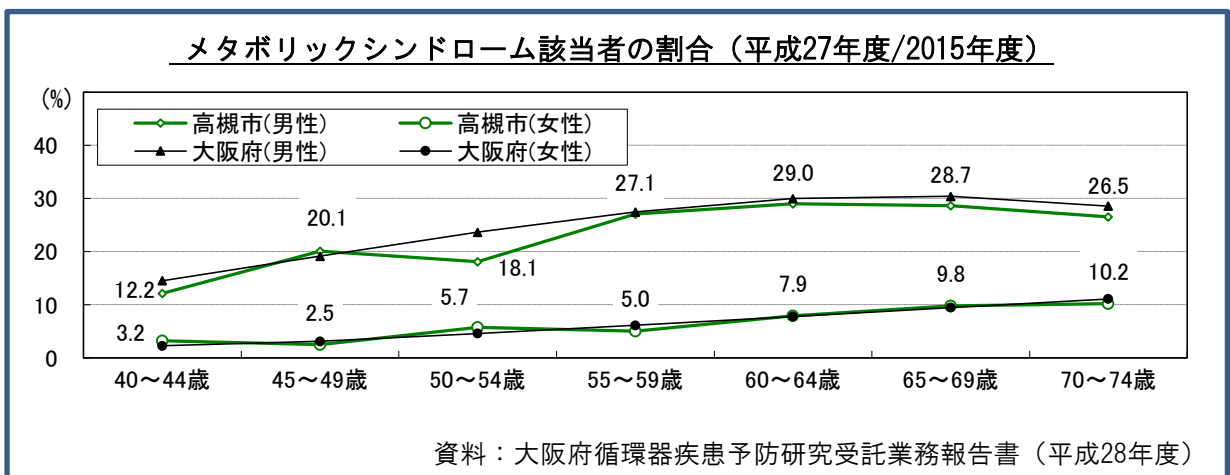
特定健診受診率は、年々上昇し、大阪府・全国と比較しても高い状況にあります。

特定保健指導実施率は、平成22年度（2010年度）から大阪府・全国より高い傾向にあり、毎年上昇しています。



＜メタボリックシンドローム該当者＞

メタボリックシンドローム該当者の状況をみると、男女とも年齢が高くなるほど増加する傾向にあります。また、大阪府と比較すると、男性の50～54歳で低く、女性についてはほぼ同程度の割合となっています。



第2章 健康をとりまく状況

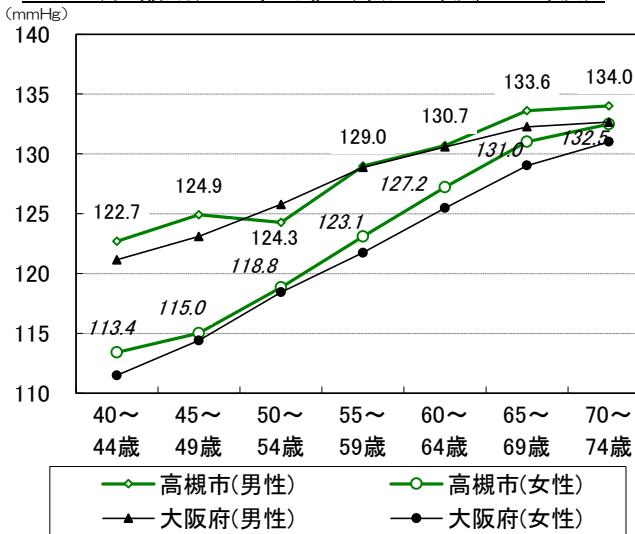


<高血圧の状況>

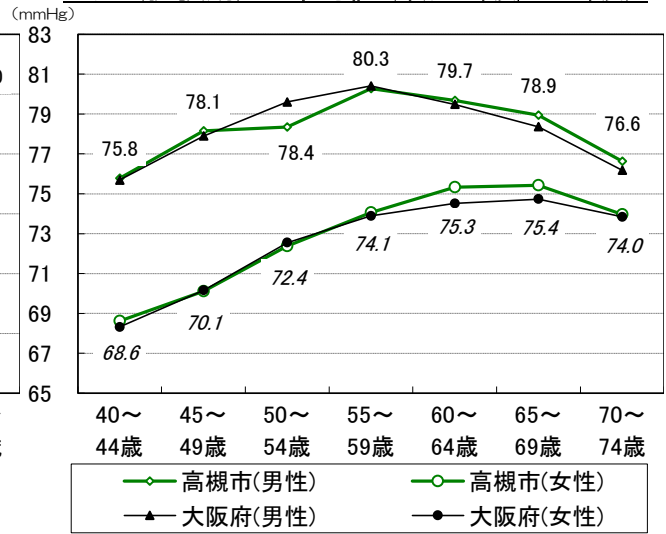
血圧の平均値は、すべての年齢で男性が女性よりも高くなっています。また、男性はほぼ大阪府平均と同様なのに対して、女性は年齢が上がるにつれて、大阪府平均より高くなっています。

高血圧に関する医療機関への受療状況をみると、年齢とともに有病率は増加しており、70～74歳では約4割の人が受療しています。また、40歳代、60歳代の有病率はやや増加傾向にあります。

血圧（収縮期）の平均値（平成27年度/2015年度）

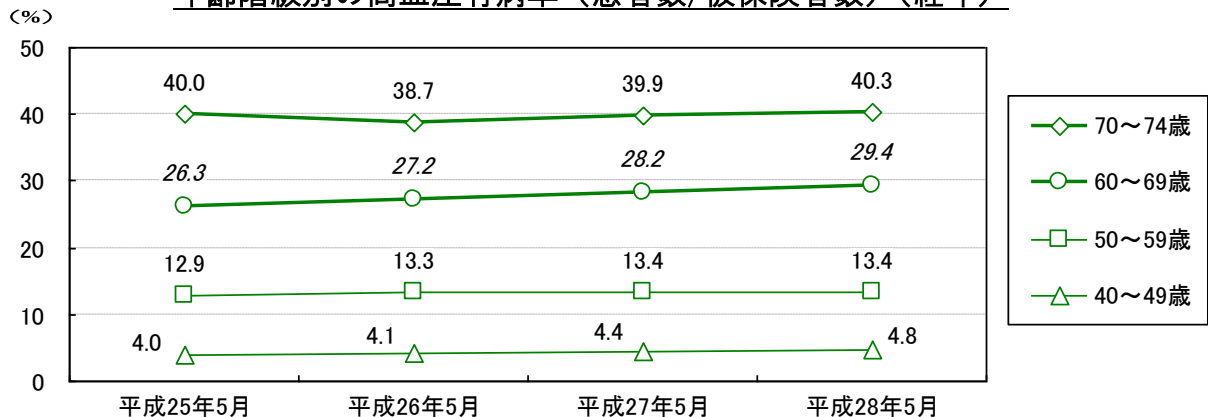


血圧（拡張期）の平均値（平成27年度/2015年度）



資料：大阪府循環器疾患予防研究受託業務報告書（平成28年度）

年齢階級別の高血圧有病率（患者数/被保険者数）（経年）



資料：国保データベースシステム厚生労働省様式3-3



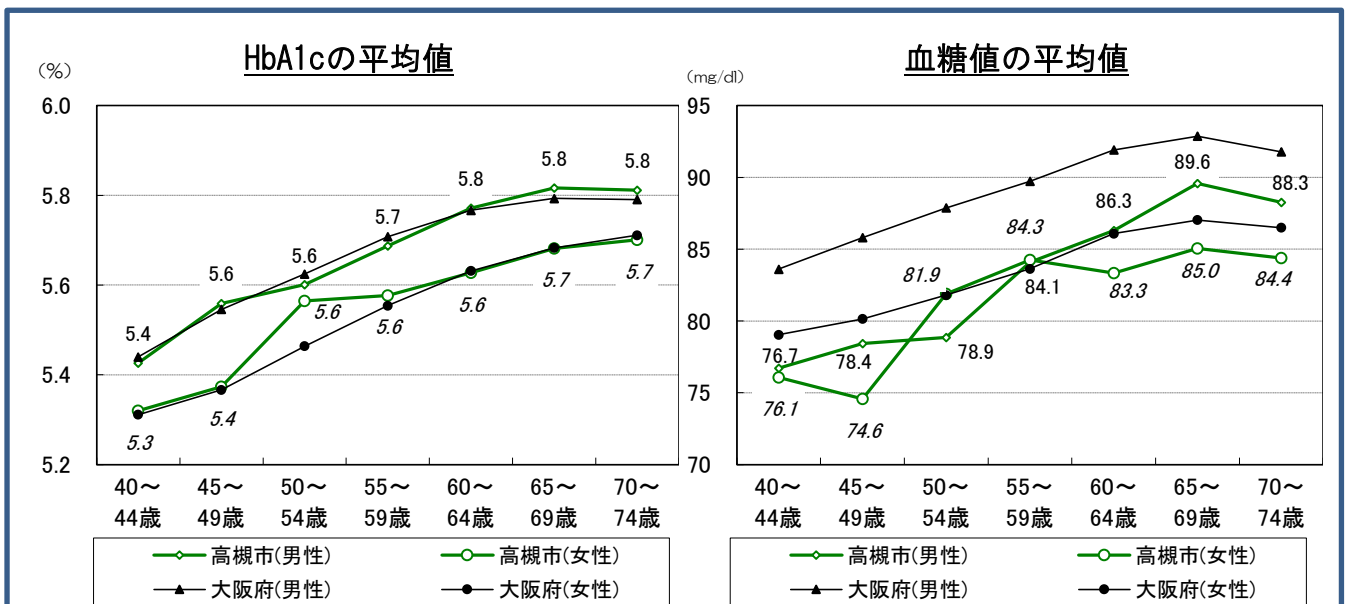
<糖尿病の状況>

糖尿病の診断に用いられるHbA1c（ヘモグロビン・エーワンシー）の平均値は、男女ともほぼ大阪府平均と同様となっています。

血糖値の平均値は、男性は大阪府平均よりも低く、女性は40歳代、60歳代、70～74歳で大阪府平均よりも低くなっています。

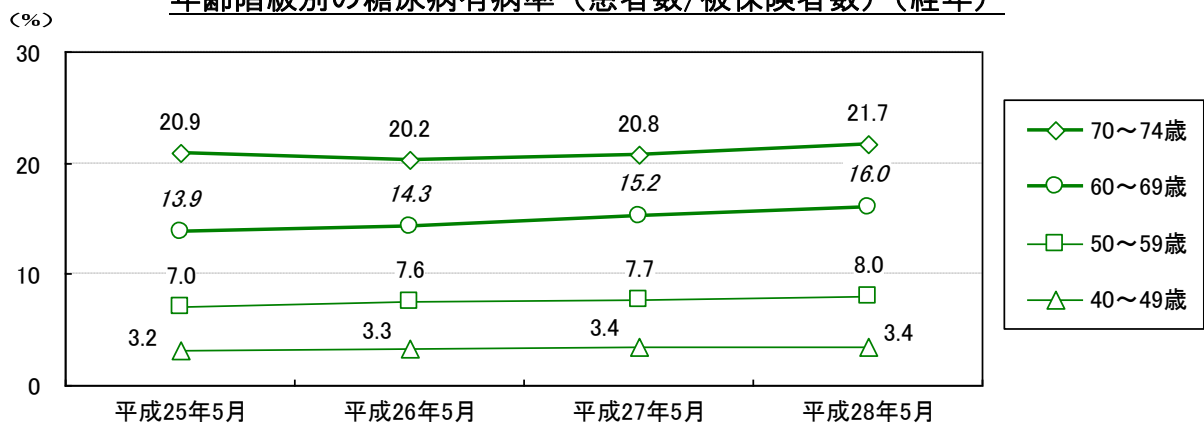
また、HbA1c、血糖値とも年齢が上がるにつれて上昇する傾向にあります。

糖尿病に関する医療機関への受療状況をみると、50歳代、60歳代の有病率は増加傾向にあります。



資料：大阪府循環器疾患予防研究受託業務報告書（平成28年度）

年齢階級別の糖尿病有病率（患者数/被保険者数）（経年）



資料：国保データベースシステム厚生労働省様式3-2



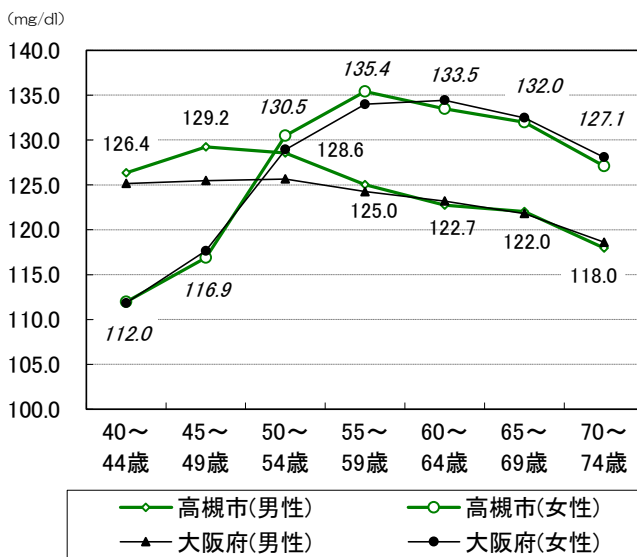
<脂質異常の状況>

LDLコレステロールの平均値は、男性は40～59歳で大阪府平均より高く、女性はほぼ大阪府平均と同様に年齢が上がるにつれて高くなり、55～59歳をピークに少し低下しています。

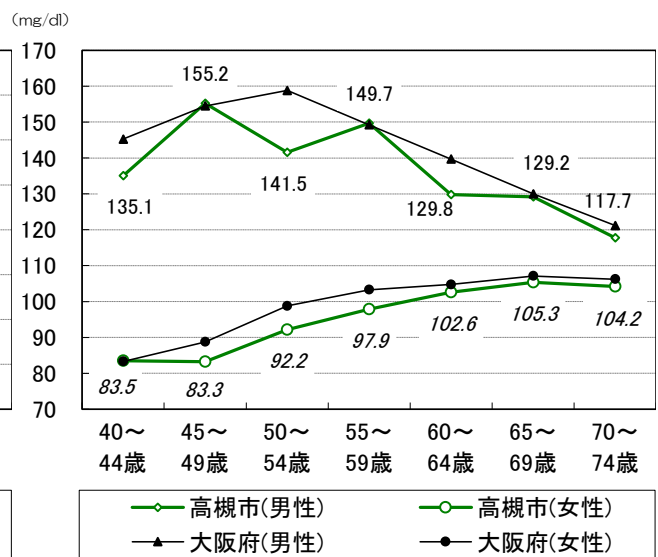
中性脂肪の平均値は、男性は概ね大阪府平均より低く、特に50～54歳が顕著であり、女性も大阪府平均より低くなっています。

脂質異常に関する医療機関への受療状況をみると、60歳代の有病率は増加傾向にあります。

LDLコレステロールの平均値（平成27年度/2015年度）

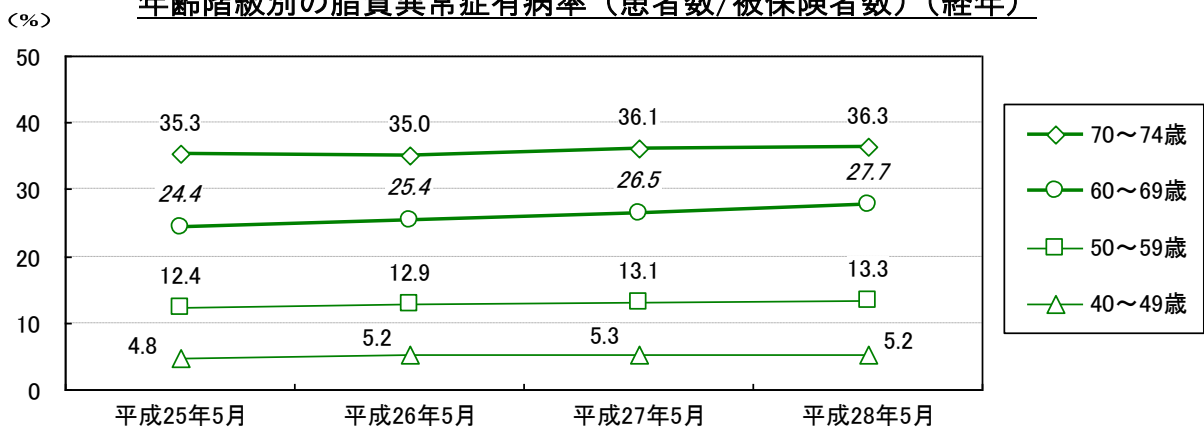


中性脂肪の平均値（平成27年度/2015年度）



資料：大阪府循環器疾患予防研究受託業務報告書（平成28年度）

年齢階級別の脂質異常症有病率（患者数/被保険者数）（経年）



資料：国保データベースシステム厚生労働省様式3-4



7. 要支援・要介護認定者の状況

介護保険事業の要支援・要介護認定者数は一貫して増加を続けており、平成29年（2017年）3月末現在、第1号被保険者（65歳以上）の認定者数は16,269人、認定者の割合は16.2%となっています。

また、要介護度別にみると、要支援1、要支援2、要介護1の軽度者の割合が高く、全体の約6割を占めています。

